

～令和3年度海ごみ発生抑制に係る人材育成業務～
調査実施結果

日 時：令和3年（2021年）11月28日（日）8:50～16:30
場 所：三豊市栗島（調査場所①：西浜 調査場所②：永浜周辺）
受講者数：17名

11月28日（日曜日）17名の県民が参加して、三豊市栗島でビーチクリーンアップモニタリング調査を実施しました。

島内の異なる2か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法（調査時間20分間）と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と漂着ごみの回収を行いました。

調査方法の説明は、海ごみリーダー養成講座（11月13日開催）に参加した受講生が務め、講座の中で学んだ実施時の留意点などについて説明がされた後、3グループに分かれてごみ拾い調査をしました。

1 か所目の西浜は、海岸を目視で確認しても複数の漂着ごみが目に付く状況の中、水辺の散乱ゴミの指標評価手法と ICC 調査を行いました。個数が多い漂着ごみの品目としては、発泡スチロール破片やペットボトルとなりました。

2 か所目の永浜周辺も同様の方法で調査を行いました。今回の活動前に海岸クリーンアップが実施されており、大きな漂着ごみはすでに回収されて多くありませんでしたが、海岸上部の草むらの中には破片化したごみが多く確認できました。

参加者からは、「同じ島でも海岸によってごみの量や種類が変わるのが分かった」「ペットボトルが多くあるのが分かった」「破片化しているごみを拾うのは大変」などの意見がありました。

今回のモニタリング調査を通して、受講者に新しい気づきがあったようです。また、受講者の中には自分たちで定期的にビーチクリーンアップを主催している方々もいることから、海ごみ削減の取り組みが広がることが期待されます。

各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった3品目） t=20分間	回収量
西浜	① 発泡スチロール破片 176 個、 ② 飲料用プラボトル（ペットボトル） 89 個 ③ プラスチックシートや袋の破片 73 個	5 袋（45Lのごみ袋） 12.9kg
永浜周辺	① 発泡スチロール破片 124 個 ② プラスチックシートや袋の破片 101 個 ③ 飲料用ボトルキャップ（プラスチック）64 個	3 袋（45Lのごみ袋） 7.2kg

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを45品目に分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量をだまかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所① 西浜の様子



海ごみリーダー養成講座受講生による説明



ICC 調査の様子



漂着ごみ



集合写真

調査場所② 永浜周辺の様子



海ごみリーダー養成講座受講生による説明



海岸上部に引っかかるプラスチックごみ



ICC 調査の様子



破片化したごみも回収